



諸議案を審議

平成6年度から平成9年度にかけての計画段階の数字ですが、どのくらい変化があつたかといいますと、全国の連合体参加の学校と生徒さんの数でみると、小学校、中学校、高校のJR利用の数は学校数で9%の減、生徒数で18%の落ち込みです。

JRの利用状況が大変なります。飛行機その他輸送機関との競合や、旅行目的や旅行形態の多様化が進む中で、修学旅行のお客様の数が落ちてきているということです。

平成6年度から平成9年度にかけての計画段階の数字ですが、どのくらい変化があつたかといいますと、全国の連合体参加の学校と生徒さんの数でみると、小学校、中学校、高校のJR利用の数は学校数で9%の減、生徒数で18%の落ち込みです。

JRを使って修学旅行に行く学校の70%余が、なんらかの形で東海道新幹線を利用しているといいます。で、私ももとしましては、いろいろ考えていかなければならぬと思っております。

いつも当社をご利用いたいが、御礼申しあげます。

JRの利用状況が大変なります。飛行機その他輸送機関との競合や、旅行目的や旅行形態の多様化が進む中で、修学旅行のお客様の数が落ちてきているということです。

合体の学校で同じような結果が出ております。

原因としては、第一に国内

このように修学旅行のお客様の数が落ちてきている

大きな背景にあると思いま

して地方芸能や地域の特産品に触れたりするものや、

出発期日の指定などが

あります。

あり、列車輸送計画に合

ため、その分「ひかり」に

余裕ができました。したが

て航空機の利用が公立高

校でも許可になってきたと

いうことで、平成7年度で

いることです。したが

ばならないと思つております。

一方、連合体に人口の学

生団体を加えたものを計

算して見していくと、平成5

年度は全国で東海道新幹線

利用の数で百六十八万人あ

ったのが、平成7年度には

百五十六万人に落ち込んでいます。これも単純にお客様が他に移ったということではなく、やはりそれなりの背景があるので思いま

る年から九年にかけて連

成六年から九年にかけて連

